

2015年(平成27年)3月8日(日曜日)

70%が景観を評価

増毛山道 アンケート コース整備求める声も

留萌振興局環境生活課は、昨年7月から10月にかけて8回行った増毛山道体験トレッキングの参加者を対象に行なったアンケート調査の結果をまとめた。回答者のうち、景観を評価している人は約70%。ミニ(5キ)、ミドル(10キ)、フルコース(16キ)に参加した回答者の半数前後が疲労度について「ちょうど良かった」と回答しているのに対し、アタックコース(19キ)では40%に届かず、コ

ス整備を求める人も20%を超えるなど課題も明らかになった。増毛山道は、江戸時代末期に交通の難所とされた増毛浜益間を通行するため、増毛の魚場請負人の伊達林右衛門が幕府の命を受けて開削した増毛町別荘―石狩市浜益区幌を結ぶ全長27・8キの山道。21年度からNPO法人増毛山道の会と振興局が連携して再生を開始し、23年度からは体験トレッキングも実施してい

る。26年度の体験トレッキングは、それまでのミニ、フルコースに加え、ミドルコース、岩尾分岐から昨年新たに復元した雄冬山直下までを歩くアタックコースの4コースで行われた。アンケートは27年度以降のトレッキングの参考にするために実施、参加者121人から回答を得た。景観に関する質問では、全コース参加者のうち40・5%が「全体的に良い」、28・9

が「一部は良い」と回答しており、合わせると69・4%が良いと評価している。疲労度に関する質問で「ちょうど良かった」と回答した参加者はミニコースが62・4%、フルコース51・1%、ミドルコース48・4%とおおむね高かったが、アタックコースは36・8%と若干低かった。また、コースの整備状況については、アタックコースに参加した21・1%が「整備が必要である」と答えた。他のコースで整備を求める声はなかった。

同課では「アタックコースは、山道の両側に生えている木をよけながら歩く部分があるなど、他のコースよりも自然に近い状態のため、疲労度が高くなったり、整備を求める声が出てくるのだと思う。27年度は、募集段階でアタックコースが上級者向けであることをしっかり周知するとともに、少しでも歩きやすく整備していきたい」と話している。(原田学)



参加した約7割が景観を評価した増毛山道体験トレッキング(写真は昨年の様子)